情報公開文書

課題名

『子宮筋腫と子宮肉腫を術前に鑑別するアルゴリズム作成のための研究』

概要

子宮筋腫の診療方針は、子宮筋腫が良性腫瘍であることを前提として決められます。すなわち、経過観察、保存療法、子宮動脈塞栓術、腹腔鏡下手術における電動モルセレーター(腫瘤を細切除去するための筒状の刃の付いた器具)による筋腫核出術などは、正しく良性腫瘍であると診断できて初めて可能となります。しかし、子宮筋腫は、その大半は診断可能であるものの、子宮筋腫の1%以下の頻度で認められる子宮肉腫との鑑別が困難であるケースもしばしばみられます。そして、子宮肉腫を診断できずに腹腔鏡下手術を行い、電動モルセレーターを用いて腫瘍を細切することで、肉腫の腹腔内播種を来たすリスクを伴うことになります。
MRIでの所見とLDH値（細胞内で糖がエネルギーに変わるときに働く酵素の値）を元に、子宮肉腫を高い感度で拾い上げつつ子宮筋腫と子宮肉腫を鑑別する、簡便で再現性のある方法を確立することを研究目的としました。

対象

2006年以後にMRIを術前に撮影し、手術を行った全ての子宮肉腫（子宮平滑筋肉腫および子宮内膜間質肉腫）と同時期に手術された同数の子宮筋腫症例をランダムにピックアップする。

情報公開について

当院　倫理委員会の承認を得た後，研究責任者の管轄のもとに行われます。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため，対象となる患者さんにあらたにご負担をおかけすることはありません。また，この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重され，患者さん個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。

もし，ご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は，下記までご連絡くだされば，解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも，診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また研究に関して、ご不明の点がございましたら，いつでも病院までお問い合わせください。

【研究代表者】
江本　郁子（えもと　いくこ）
(独) 国立病院機構京都医療センター　産科婦人科
TEL：075-641-9161